

めだかの学校だより

令和元年5月1日

第104号

学舎：周智郡森町一宮

「一宮総合センター」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL: 0539-62-6691

校長訓話

第一〇四回校長 鈴木 亜繪美

この五月、いよいよ平成から新元号「令和」に御代替わりしました。大化から数えて248番目の元号「令和」の典拠は、「万葉集」の巻五、梅花の歌三十二首の序文だといえます。

「春過ぎて 夏きたるらし 白妙の衣ほしたり 天の香久山」

万葉集の中でも有名な持統天皇の歌はみなさまも良くご存知でしょう。季節が変わる風景を詠んだもので、この歌には夏を連れてくる神への「祝い」や「感謝」の意味があるともいわれています。

季節の移り変わる美しい季節、「令和」の文字のシンプルさと、「レイワ」という優しい響きは、新しい時代への期待を膨らませます。そして、日本最古の歌集「万葉集」への関心とともに、日本の古き良き伝統文化にも改めて注目が集まるのではないかと思います。

実は、私が静岡県磐田市民になった

のは平成二十二年。先祖はずっと静岡ですが、私自身は東京・神奈川で生まれ育ち、放送関係のライターと色彩プロデューサーの仕事をしてきました。色彩に深く関心を持つたきっかけの一つが、「十二単」の「重（かさ）ねの色目」などに見る日本の伝統的な色彩の素晴らしさです。五月一日即位の礼で新天皇がお召しになった東帯装束の色を覚えていらっしやるでしょうか？その淡く赤みがかった茶色は「黄櫨染（こころぜん）」といい、天位の象徴として盛夏の太陽の輝きを表したものといわれ、天皇以外は用いることが許されない「禁色（きんじき）」です。さらに、皇后陛下の十二単は「花橘」という名の夏の重ねの色目で、平安時代には、この重ねの色目の知識は、和歌とともに重要な教養だったといえます。

近年、ファッションも生活スタイルも欧米のカラーを模倣することが多くなっています。しかし、日本には古来、色ひとつひとつに名前や意味があり、季節を配色で表すなど色彩美に優れ

ていました。

平成から令和へ御代替わりする今、二千年の歴史を持つ皇室儀式が再現され、その様子をオンタイムで見ることが出来ます。AI（人工知能）など科学がどんどん進む一方で、古き良き時代の伝統文化が根付いている日本の魅力をあらためて再認識したいものです。

これからの令和の代が、みなさまにとって平和で、彩りのある時になるとを願うばかりです。



めだかの学校伝言板

第104回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／鈴木亜繪美

教頭／村松達雄

用務員／村松幸範

給食係／大久保陽・村木謙弐・牧野久子・池田タキ江
石野省三・中村やす代・大谷香代子・山中幸子
今村純子・天野智加志・原田豊子
渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出掛けを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／令和元年6月7日(金) 6:20PMより

受付／大場敬子・大橋町代・秋山勝則・榊原幸雄(後見人)

26期通年テーマ：『今を感じつつ、新たな年は「ハヤブサ号」のように…』

今回のテーマ：<新元号「令和」を知ろう！「令和」になれよう！>

- <時間割>
- 1時間目 社会 日比野雅彦 先生(浜松市)「メディアがとらえる『令和』」
 - 2時間目 国語 山下智之 先生(浜松市)「古典からみた『令和』」
 - 3時間目 美術 草笛由美子 先生(守山市)「『令和』を描く」
 - 給食の時間～令和ご膳？～ 9:30 閉校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■三遠南信の生き方に光が当たる時代に...

先日、国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所の田中里佳事務所長の講演を聴く機会があった。海育ちの田中さんは以前から神々しい雰囲気を出し出す山への憧れを持っていたそう。そして「山と海を繋ぐ川は人と自然も繋ぐ。自然の力は人間の力では防ぎきれない。自然に対して人間は謙虚でなくてはいけない。私たちは自分たちの暮らしている地域をもっとよく理解し、自然の一部であると理解しよう。それが自然災害から身を護ることに繋がると思う」と話されていた。

明治以降の河川整備によって、洪水被害が減り多くの命が守られてきた。しかしこれに胡坐をかくな！「動物的カン」とも言うべき自然感知センサーを私たち人間も思い出せ！

田中さんの柔らかく優しい言葉の中に、私は勝手にこんな想いを脚色してしまっただ。それは三遠南信の民俗芸能がずっと投げかけてくれていた我々へのメッセージ。三遠南信の生き方に光が当たる時代になってきた。(水島加寿代メダカ)

■うめたちあきのうた絵巻

昨年から故郷を歌で応援する音楽活動を始めた。「埋田さんの活動のエネルギー源は何ですか？」フットワーク軽く飛び回る私に問い掛ける人がいた。エネルギー源それは母への思いに他ならない。東日本大震災の年、母が急逝した。震災で世の中が大混乱に陥ろうとも、私には見知らぬ遠く

の人様のことを心配する余裕はなかった。看取り後、空虚な思いを引きずりながら「故郷」と「母」は同義だと気づいた。そして、十分な親孝行が出来なかった思いを、故郷へ返していこうと決心した。現在、遠州、北遠の各地を歌作りで訪ね歩いていく。かつて塩の道を入々が往来したように、私も実際に体を運び、各地の風土や暮らしの息吹を感じながら作詩するのがモットー。天竜川を見下ろして育った。天竜川を北上し諏訪まで繋ぐのが夢だ。病床の母を思って走ったように、歌作りで繋がった友の思いに寄り添いたい。現在10作品目を手掛けている。検索「うめたちあきのうた絵巻」(埋田千聡メダカ)

■遠江国一宮小國神社例祭

今年も、4月20日(土)21日(日)に、遠江国一宮小國神社例祭が行われました。皆さん小國神社に参拝されたことがあると思いますが、例祭時の参道は、神輿ほか神幸祭の行列、舞楽衆の行列、勅使の行列など優美な非日常の世界に一変します。

国指定重要無形民俗文化財の古式十二段舞楽は、番外「花の舞」、一番「連舞」、二番「色香」、三番「蝶の舞」、四番「鳥の舞」、五番「太平楽」、六番「新まつく」、七番「安摩」、八番「二の舞」、九番「稜王」、十番「抜頭」、十一番「納蘇利」、十二番「獅子」まで、奉納時間は六時間余り、舞人、楽人、衣裳方はじめ例祭当日の舞楽関係者は70人ほどです。私は、この舞楽の奉納伝承に三数十年にわたり関わっております。千数百年の昔から伝えられてきた地域の宝である「古式舞楽」を未来永劫に伝承すべく仲間とともに努力しております。

(天野智加志メダカ)

■第17回全国まちづくり交流会

in 福島県飯館村で開催

第17回全国まちづくり交流会 in 福島県飯館村は、2019年8月2日(金)〜4日(日)の3日間、福島県飯館村で開催。8月2日(金) 18時から飯館村村内で前夜祭、終了後宿泊先へ。3日(土) 8時宿泊先にて朝食、10時飯館村内視察(道の駅など)、11時30分飯館村交流センターにて昼食、村長講演。14時30分飯館村内視察(飯館中学校、福祉施設など)。18時大交流会、終了後宿泊先へ。4日(日) 10時宿泊先〜10時30分オプショナルツアー(除染関係の施設) 12時30分解散。参加費全日程25000円(前夜祭、交流会費、宿泊費全て込み)。

菅野典雄村長のお話を聞くのもいいものです。ぜひ参加を！。新幹線で行く予定です。希望者は6月10日までに榊原までご連絡を。

■鈴木正土宅『我が家のお茶摘み&コンサート』山里は笑顔でいっぱい

磐田市北部、山間の鈴木正土宅「大平山荘」での『我が家のお茶摘み&コンサート』が4月27日(土)、遠くは千葉、東京、神奈川など県内外から多くの顔見知りやめだか生ら100人ほどの人が集まって開かれました。山里は大賑わい。近くの草刈り場でわらびなど山菜を採ったり、タケノコを掘ったり、お茶を摘んだり...と。山荘に戻って昼食交流会。自慢の手打ちそばや、搗き立てのモチ、茶葉や山菜の天ぷら、タケノコと山菜の煮物、こんがり焼いた肉



など、自己紹介などもあったりして...人もお腹もまんぷくまんぷく。まさにまんぷく交流会。2時45分からは薩摩琵琶と400年前の小鼓のソロとコラボなどの邦楽演奏会。みどりの香りにも乗せられて身も心もリフレッシュ。いや〜良かった、よかったです。それにしても寒かった。来年の令和2年4月の最終土曜日、「元気で再会を！」と誓うのでした。

※4月30日付静岡新聞朝刊、社説『大自在』に、23間続けられているこの催しのことと、鈴木正土メダカの地域に対する思いや、お手伝いの「猫の手クラブ」のことが載っています。いい記事です。うれしですね。(榊原幸雄メダカ)

『人・ひと・ヒト...だより』

●浜松市佐久間町の山田ひろ子メダカ。国道152号線の復旧や三遠南信自動車の佐久間道路の開通など交通アクセスが改善されたので「縁側カフェ結」の営業を再開、と。10年前に夫の山田修平メダカと清水町から移住し10年。カフェを始めて8年目。カフェは土、日曜日と祝日限定の営業。町のイベントの出店も。「いいところです。おでかけください」だって。

●浜松市の山下智之メダカ。毎週木曜日、静岡新聞夕刊の「窓辺」に執筆。江戸期の国学者、賀茂真淵の「賀茂真淵翁遺徳顕彰会」の会長をしている。国学は単なる古典研究にとどまらず、歴史文化や天地自然風土に育まれた我が国独自の学問。浜松市中央区の「縣居神社」に「学徳成就」の神として祀ってある。5月1日から元号も「令和」になる。「我が園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも 大伴旅人。来年『令和二年』の万葉歌はこの歌が一番多いような気がします」だって。さすが！第1

04回めだかの学校の先生の一人ですぞ！。ハイ。

●滋賀県守山市の草笛由美子メダカ。静岡県菊川市の菊川文化会館アエルで、4月14日(日)劇団静岡県史(浜松市中区)上演の、幕末の偉人が名を連ねる『牧ノ原開拓史』侍たちの茶摘み歌』の応援企画として、4月13日(土)・14日(日)の2日間限定で「草笛由美子空間アート作品展」を開催。お茶で染めた布による空間アート、かたり絵、吉祥画などを展示した。静岡県西部地区を中心に活躍中。第104回めだかの学校の先生もやりま

●浜松市の鈴木真弓メダカ。3月に東京銀座の美術家連盟ギャラリーで27名の作家さんたちと開催した「凹凸展」も終わり、このあとバリ島のアルマ美術館で浜松の作家さん達と8月25日から約1ヶ月間展覧会をやりま、だつて。

●東京の菅原欽一メダカ。東京で開催の、凹凸展で鈴木真弓さんの作品を拝見してきました。シュールな作品で、めだかの学校にあのような表現者がいたというのは新鮮な驚きです、だつて。

●磐田市の鈴木亜繪美メダカと大島たまよメダカ。磐田市池田のステージ97ギャラリーで平成31年3月2日(令和元年5月6日)までの土日祝日開催の「ひなさまと時めぐり花めぐり」を企画、開催。磐田市内で毎年開催している「国分寺まつりin遠州」国司一行が行列で着用しているオリジナル天平衣装なども特別に紹介。日本を知ろう！倭文化探求講座「日本の色・重ねの色目」や「古事記と天皇家」も4月25日・27日に同時開催した、だつて。

この時期は「熊野の長藤まつり」もあって池田地区はその他のイベントもあって賑わった、と。

●東京のかまちよしろうメダカ。浜松市の喫茶アモト舎で、2019さよなら平成♪春一番ライブ♪in浜松アモト舎」をやったんだつて。第1部オリジナル曲「犬サブレ音頭」「哀愁の犬サブレ黄色」「スキスキごんちゃん」など、第2部は懐かしのGCサウンド「いとしのマックス」「君に会いたい」「ブルーシャドー」など。マンガを書いて、歌も歌って、いや、忙しい(?)と。静岡新聞朝刊4コママンガが「ごんちゃん」と、アノ「犬サブレ」との落差。大同窓会で「犬サブレ音頭」を歌ったけど：マイッタ。(笑)

●磐田市の野崎正蔵メダカ。4月7日行われた静岡県議選の磐田選挙区で立候補、当選。3期目。おめでどう！。同じ選挙区で「女性の目線です」と、磐田市議を辞職して出馬した川崎和子元メダカは検討もむなしく落選。これからは議員の立場ではできなかつたグループや団体のお手伝いをしていく、と。女性議員は少ない。磐田市議会では26人中芦川和美メダカ1人となつてしまつた。「めだかの女性は強いぜよ！」と影の声。ほんとうでございませう。ハイ。

●浜松市の加藤ひとみメダカ。娘さんに男の子の赤ちゃんが生まれておばあちゃんになつた。かわいくい！だつて。そんなこともあつて1月のシティーマラソン以来走っていない、と。ガンバリばあちゃん、まだまだ走りまゝす。

●浜松市の石野裕子メダカ。2012年から始めた「しあわせ色コンサート」、今年4月20日に、なゆた浜北ホールで行なう。回を重ねることに入場者も増え、今年150名。田村進治メダカも初参加♪。1部はピアノ、ボーカル、合唱の発表。2部はゆうころんのミニライブとうたごえタイム。ミニライブでは「だいすき♡笠井」

「笠井街道夢紡ぎ」。ジョイサウンドでカラオケ配信が始まつた。「あなたしか見えない」を披露。うたごえタイムではピアノ、ギター伴奏とともに会場全員で大合唱。7月7日(日)午後には、磐田市の福田交流センターで「ゆうころん」の歌声広場を行います。感謝の気持ちを忘れずに、だつて。

●浜松市の長谷川智メダカ。勤務先の朝日新聞に、昨年一年間連載した『遠州考』に、一部写真や講演録の収録などを加えて一冊にまとめた『遠州考 やらまいかを探る』を、静岡市の羽衣出版より自主出版。内容はプロローグ「暴れ天竜」と「賜物」と。☆丘浅次郎と掛塚☆女性たちのやらまいか☆医療のやらまいか☆浜名湖のいだてん☆国学のやらまいか、など。ハードカバー224頁。税込1620円。4月から書店とインターネットでも購入できる。大変おもしろい本です。購入してね！だつて。

●浜松市の村木謙式メダカ。朗らかで一生懸命のめだかの「ご飯担当責任者」。第103回めだかの学校の時、なんと『炊飯器』言うことを聞かず、何度スイッチを押してもカシャツと戻つてしまふ。エー、40分間スイッチを押しつづけるの？、マイッタ。顔には焦りが(笑)。そんな時「お鍋が空いたからお鍋で炊こう！」と助っ人。「エッ、大丈夫？」。結果は、ちよつとおコゲがあつた。美味い炊きあがり。いや、良かったア。だつて。(給食当番のうらばなし)。感謝してまゝす。ハイ。

※お知らせ
めだか春秋はリレー形式で。文字数は18文字37行以内。第105回めだか春秋は、大橋町代メダカ。お楽しみに！

《めだか春秋》

論語と報徳思想

報徳思想と論語の教えが似ているから関係があるのではと思ひ、調べたところ「論語と二宮尊徳」と言う本がありました。「報徳」という二宮尊徳の教えの由来も「論語」にあります。「論語」の中にこう書かれています。(日本語訳)「ある人が言った。怨みを怨みで返すのではなく、怨みを徳で返す」といふことはいかががでしょうか。先生がおっしゃつた。

では、人から徳を受けた時に、どう返すのか。怨みには真つすぐな心で返し、人から受けた徳は徳で返すということだ。この場合「徳」とは恩徳のことです。二宮尊徳の「報徳」の精神は、この章の「徳を以て徳に報いる」といふ言葉からきています。「報徳訓」には、

父母の根源は天地の命令に在り
身体の根源は父母の生育に在り
子孫の相続は夫婦の丹精に在り
父母の富貴は祖先の勤功に在り
吾身の富貴は父母の積善に在り
子孫の富貴は自己の勤勞に在り
身命の長養は衣食住の三つに在り
衣食住の三つは田畑山林に在り
田畑山林は人民の勤耕に在り
今年の衣食は昨年の産業に在り
来年の衣食は今年の艱難に在り
年々歳々報徳を忘るべからずとあります。

「論語」の人から受けた恩徳が、「報徳訓」では人の根源的な生命ということから、命の繋がりや大自然の恩徳に拡大され、勤勞によつてそれに報いることを教えています。混乱の現代社会、報徳思想から学ぶことは多いと考えます。

(高田正人メダカ)



■令和元年・第27期 期初特別授業は日時を変えて小國神社大宝殿で

第27期・第105回めだかの学校は、令和元年9月6日(金)となりますが、今回は元号も変わったことでもあり、日と時間を9月7日(土)午後一時(受付)から8日(日)午前九時(解散)までの1泊2日と変更します。時間割は従来の時間割の流れを踏襲しながら、午後二時予鈴、校歌斉唱、新入生紹介、建学の精神唱和、校長訓話、事務局からのお知らせとします。期初特別授業は仮称『進歩自由夢』パネラーは飯田市の長谷部三弘さん、千葉市の鈴木厚正さん、静岡市清水区の花井孝メダカ、東京の菅原欽一メダカ、コーディネータは溝口久メダカを予定。給食の時間は五時から、八時から夜なべ談議。宿泊なしは七時半閉校。八日(日)六時起床、朝食、九時終了。会費は泊まりなしで3000円、宿泊ありは5000円予定。詳細は第105回職員会議で検討していきます。

■事務局だより

桜の花も終わり、山は黄みどりから緑へと変わっていく。そんな移ろいを俳句の季語では「山笑う」と形容している。私は山が動いているように感じる。時代は「平成」から「令和」へ。時の流れの早さをつくづく感じる今日此の頃です。

さて平成最後の「第103回めだかの学校」は、平成31年3月1日(金)。校長鈴木計芳、教頭加藤ひとみ、用務員若尾和孝。紛失していた鐘も、どなたかが森町の

太股神社に願かけしてくれたおかげでみつきり、元の鐘で授業することができました。平成最後の校長訓話、高校卒業後、県の茶業専門研修所で1年間研修後、浜松市の山間の渋川地区で、家業のちよつと渋みのある『渋川茶』の、生産から加工、販売まで、また新商品の開発を手がけている、などお茶にかける情熱を語る。授業は一時間目、歴史「つなげたいもの、赤引から伊勢まで」上嶋裕志先生。火伏の神様として信仰を集めた春野町の秋葉山。火坊秋葉三尺坊大権現や秋葉講とお日待ち、三ヶ日町の初生神社や庚申講、お日待ちなど、庶民信仰などを語る。二時間目は社会「古きものを生かして、出合いの場に…」本島真弓先生。「浜松から二俣に来て、なんてこじんまりした町だろう」と思った。天竜厚生会に勤めたことや、主人の慎一郎メダカからとNPO法人を立ち上げ、古民家を借りて、マルカワの蔵「又水」を運営、多くの作家さんの作品展示や交流など情報発信をしている、と。三時間目総合学習「つくること、つなげること」のウラには…榊原淑友先生。「県営茶業研修センターで学んで、農協の茶業指導員に。一年目で森の茶が品評会で金賞に、鼻ピク。そんな時菊川の茶農家の人から、森の茶は10年遅れている、と言われ、名産地の茶を徹底的に調べる。また赤字部門の葬祭部門やガソリンスタンドを一年で黒字に。森のトウモロコシ甘々娘や町並み蔵展、町議や町長選やと。いやはや女房には頭が上がりません」と。授業も興に入って終了。私語飲食全て禁止の次回3役発表。校長鈴木亜繪美、教頭村松達雄、用務員村松幸範。次回第104回めだかの学校は、新元号の6月7日(金)。この3役、個性ありで面白そう。給食当番も決めて、「今日の日はさようなら」を歌いつつ、握手をしながら再開を!

第104回のめだかの学校の職員会議を、4月4日(木)19時から学舎で開く。夕食は温かな釜めし。用務員の村松幸範メダカ「森町に住んでいて、こんな美味しい釜めし食べたことない、知らなかった」だった。村松達雄メダカは、天宮神社祭礼の舞いの練習で欠席。鈴木亜繪美校長のあいさつで会議に入る。4月1日に新元号『令和』が発表されたこともあって、テーマや授業内容も、新元号『令和』を基本ベースに話し合うことになった。テーマは『令和元年・変わるもの変わらないもの』だったがちよつと軽くして『新年号は令和』。『令和』を知ろう! 『令和』になれよう! にしました。授業については『令和』が万葉集から採ったこと、号外など出して伝えようか、と、一時間目、社会「メディアがとらえる『令和』」日比野雅彦先生。二時間目、国語「古典から見た『令和』」山下智之先生。三時間目、美術「『令和』を描く」草笛由美子先生に決まる。

そのあと、第27期・第105回めだかの学校は、新元号と期初特別授業でもあるので、事務局から提案された、令和元年9月7日(土)午後一時受付、2時閉校、従来の「気をつけ礼」から始まって、校歌斉唱、校長訓話：特別授業『進歩自由夢』パネルティスカッション。5時から給食の時間、8時から夜なべ談議。8日(日)6時起床、朝食、9時閉校。内容は第105回の職員会議で詰めることに。

■第27期の受付をしています…

第26期は平成30年9月1日から31年8月31日までですが、実質今回の第104回授業で終わりとなります。新しく入校を希望される方がいましたら事務局までご連絡下さい。

第27期の受付を、第104回の開校日、令和元年6月7日(金)から始めます。毎年度入校手続きが必要です。継続希望者は申込書を同封してありますので、8月31日までに手続きをお願いします。未提出の生徒は名簿からはずれ自主退学となりますので、ご注意下さい。

■今回も「めだかの学校だより」遅れてごめんなさい。

「令和元年5月1日」の発行日に…と思っていたのですが、無理でした。いつもお手伝いいただいています石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、本島慎一郎メダカありがとうございます。私も少しパソコンでメールしてみました。まとめて下さる間淵亮太メダカ、発送などのお手伝い、榊原明美さんありがとうございます。

■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、令和元年8月1日予定。締切りは7月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙かファックスで待っています。メールの方は、

《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》
間淵亮太090・5009・0986です。
(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05
39・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・77
30 開校日の午後4時以降のみ使用可
携帯 080・1612・9130

